

最近の国際情勢は大きく揺れ動き、何時何かが起こるか予測できません。

はっきりしていることは、米国と中国の覇権争いが日常化していることです。

2020初頭に民主党のバイデン政権が発足したが、大統領の意思に反して国内の中国を快く思わない米国民が八割強を占めている状況に救われ、対中政策は進められ、米国内の中国人のビザ制限が厳しくなり、中国に対する制裁が行われ、台湾に対する中国の侵略行為にも我が国や、多くの周辺国が南支那海での、中国の不法な支配にフィリッピンによる国際法廷提訴判決の中国の主張を退ける議決を受け、改めて中国の覇権行為を監視するに至った。

思い起こせば、日中戦争中は中国全土で、多数の軍閥が対立していました。日本の支持する南京政府汪兆銘政権・ソ連の後押しする毛沢東の共産党や米国のルーズベルト支援で頑張る蒋介石の国民党政府などです。

戦局の推移と共に、共産党と国民党が組む国共合体政府まで出現したが結局双方が対立日本軍の敗退により、再び国共両党の内戦で、毛沢東の妻が国民党に殺害され、その後の内戦で毛沢東の率いる八路軍が勝利し蒋介石は台湾に逃れ、大東亜戦争の終結から約五年後共産党政府が中国での勝利を確実なものとして、中国共産党政権が発足して、現在に至った。

又韓国政府は独立後、日本に対する批判を強め米国のCIAの支援を受けた李承晩大統領は一方的に我が国の竹島を含む領域をラインで線引き現在に至っている。

とにかく米国は他国にわざと問題の火種を残す方法で外交で優位に立つ外交手段も、常套手段といえる。

韓国は日韓併合は、日本による占領と主張するが、歴史的事実が大きく異なる。

当時の朝鮮は李朝末期の高宗の時代であり、王の父の大院君・皇后の外戚勢力

日本を頼りにする進歩派などが政策をめぐり対立、王妃の清・ソ連寄りの過度な

対立により、国力も疲弊していて、まさに末期症状であったことは、当時の国民の

平均年齢が二十四歳であったことや、階級制度がもたらす、勢力が二つしかなく

片方は搾取する側、片方の多くは搾取され、不当に酷使される側であったことは

現存する資料からも明らかで、ファンタジー思想の現在の韓国・北朝鮮人には

到底容認できない事実であり、日本がこのような魅力のない国を併合するにあつ

て自発でなく当時の他国に請願され、併合するに至った。

現在の韓国の我が国に対する態度を考えれば、我が国は貧乏くじを引いたような

ものだ。 ソ連との防波堤として、朝鮮半島を併合する価値はあったが

併合後インフラ政策に現在の価値で六十参兆円もの資金を厳しい財政から拠出

し、結果平均寿命も四十五歳まで伸びたことは周知の事実だ。

中国も満州に残した、我が国の資産が独立に際し大いに役立ったことは事実だ。

しかも戦後周恩来の人柄に米国のニクソン・日本の田中角栄首相が騙されたのは

皮肉だし周恩来が末期膵臓ガンの時、毛沢東は助けるそぶりもなくむしろ治療の

邪魔をし、中国の恩人(ナンバー2)の死を望んでいた。

なのにアジア圏で中国・朝鮮は我が国を批判するのみ、恥ずかしくないのかと、

いいたい。